

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日 13:00～14:00

会長 藤谷 猛

例会場 ANA クラウンプラザ
グランコートホテル名古屋

幹事 深見 礼子

承認 2013年6月18日

公共イメージ
向上 岩崎 幸弘



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度名古屋アイリスRCのテーマ

共に活動し、共に奉仕し、
共に頑張るアイリス

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

第199回 例会

2017年9月20日 13:00

- 司 会：安井嗣博 例会運営・司会委員
- 斉 唱：それこそロータリー
- 出席報告：出席者数 27名 / 会員数 41名
出席率 65.85%
前々回(197回)修正出席率 82.9%

■ゲスト：林功様

■ビジター：特別代表 浦野三男様
北R C 金田剛士様

ニコボックス

○紅白のみずひきがきれいに我が家で咲いております。当クラブ浦野特別代表、澤田委員紹介の林功さんようこそアイリスロータリークラブに来て下さいました。感謝 (櫻井孝充直前会長)

○3ヶ月前より肺に影があり、肺がんの疑いでCT やらMRI、2泊3日で生体検査をし、おまけにPET(ペット)検査までして、今日は胃カメラの始末です。結果は白でも無く黒でもなく何だか解らずオフホワイトです。(安井戦略委員長)

以上2名

ニコボックス合計 7,000円

会長挨拶

みなさん、こんにちは。

今日は少々重い話になります。楽しい親睦の日ですが、どうかお許しください。1週間ほど前になりますが、私の友人が、癌でこの世を去りました。最近、疲れると思えば病院に行ったところ、何と癌と宣告されてしまいました。それから、わずか1か月の事でした。彼は、まだ57歳の若さでした。人生の時間を、そして夢も、希望も、容赦なく奪って行くのが癌という病気です。私どもの会社の37歳の社員も今、癌と懸命に戦っています。彼が入院し、手術をした時、その世話をしていた奥さ



んも、また同時に癌が発見され手術をする事になりました。子供は、まだ3歳です。夫婦そろって同時に癌などという偶然が起きてしまったのです。これからの彼らの人生を思うと胸があまりにも痛く、何もできない自分の無力さを痛感致します。皆さんは、日本人のガンの罹患率と

死亡率をご存知ですか？国立がん研究センターのがん情報サービスによると日本人の2人に1人がガンになり、3人に1人がガンで亡くなると言われていますが、生涯でガンに罹る確率は、男性で54%、女性で40%と男性の方が高くなっています。もう人ごとではないですね。私たちは、3年間に亘り名大附属病院の小児がん病棟の支援をさせて頂いております。小児がんというのは0歳から19歳以下の罹患者の事を指します。私たちが支援をさせて頂いている患者さんたちは、皆社会に出る前の子供たちです。その中で、特に小学生から高校生までの子供たちには学びという場が必要です。学校には行けなくとも、学びたい子供は多くいます。特に高校生になると、その思いは募るばかりのようです。思春期に小児がんを発症すると、高校受験に影響したり、進学できても休学が長引いて退学に追い込まれることも多いようです。それを解決するために院内学級と呼ばれる制度があります。院内学級は慢性疾患などで長期入院している児童、生徒のために各地の教育委員会が病院内に設置する学級の事です。しかし、実現への壁は厚いようです。高校生が学べる院内学級は現在、東京都と沖縄県にあるだけというのが現実です。また、私立高校での実現や、少数での実現も難しく、制度や法律の壁が大きく立ちまわっています。この壁を破り、がんの子供たちに教育の場を与えるべく沢山の方々 nationwide で努力をされています。そんな中、新聞等でご存知の方も多いかもかもしれませんが、2014年に名大附属病院小児がん病棟でこんな出来事がありました。難治性の腎臓がんで長

期入院している愛知県立瀬戸窯業高校デザイン科 2年の伊藤義希くんが、制度の壁を越え「院内学級の高等部を作って下さい」と愛知県の知事に陳情の手紙を書いたのです。大村知事への手紙には、学校にいけない事の辛さ、入院生活の孤独さを便せん2枚に綴り「デザインの勉強がしたい」「今後、入院してくる高校生が私のような思いをしなくてもすみます」と院内学級の高等部を要望したそうです。しかし既にこの時、伊藤君の病状は重く、強力な抗がん剤治療薬で、がんの増殖を食い止めている状態でした。主治医からは「現状では治る展望はない」と告知を受けていました。それでも「治ることは諦めても、生きることを諦めたわけじゃない。あこがれの高校生活、このまま終わらせたくない」と前を向っていました。それを聞いた大村知事も随分努力されたようです。そして一年後の2015年11月、医療スタッフの手を借りて10分間のビデオメッセージを撮影。懸命に笑みを浮かべ両親や兄への感謝の気持ちを告げ、翌日、睡眠作用のある点滴を希望し眠りに入り、その数日後に息を引き取りました。大村知事への陳情を行ったとき、伊藤君は、こんなことを言っています。「これからも自分みたいな思いをする子がいないとは限らない。院内学級のシステムさえ作ってしまえば、続いていくじゃないですか」「悔やんでいる時間、後ろを悔いている時間って、本当にもったいない」と語っています。闘病中の子供たちが切れ目なく教育を受けられる仕組みは依然、整っていません。院内学級がある病院も、大半は小中学生が対象であり、東京都と沖縄県の一部に高等部が置かれているだけなのです。病院への教師派遣の取り組みは、患者自身の訴えが力となり、少しずつ広がってきました。それでも私立高校は対象外なのです。まだまだ、壁は厚いのです。

私たちアイリスは、みなさんご存知のように小児がん病棟への支援を継続事業として継承して行きます。それでは今後、何をすれば良いのでしょうか。そろそろ次年度の社会奉仕事業を考えなくてはならない時期がやってきます。例えば、今日お話した院内学級の早期実現は、制度の壁が厚く時間が掛かります。しかし、制度の壁を越え、新しい技術を使い学級と病室をつなぐことも可能です。現在では、遠隔教育も難しくありません。まだまだ、支援すべきことは、山のようにあるような気がします。「社会奉仕事業の為に何をするか」ではなく、彼らが本当に何を望んでいるか、何が彼らの生きる事への支えになるかを真剣に議論してみる必要があるように思います。本日のお話が、今後の社会奉仕事業への問題提起になれば幸いです。

会長挨拶を終わります。

■委員会報告

青少年奉仕委員会 竹内祐子さんより
ローターアクトについて報告がありました。



9/10 一宮アイプラザで地区親睦会がありました。ローターアクトの勉強会もあり 1日楽しく過ごしました。9/18 には青少年サミットも開催されました。インターアクトとローターアクトの多くの方が参加しました。有意義な体験だったという感想でした。

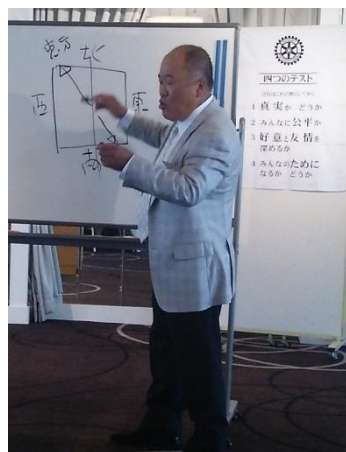
■幹事報告

深見幹事より報告

1. 9/27に前期の決算報告があります。
2. 地区委員の方の役割についてご理解を・・・

■卓話

櫻井孝充直前会長より



「識字率」について
ジョン万次郎の話
を例にお話がありました。
人類70億人の中で
世界の識字率1割。
7億の方が読み書き
ができないといわれ
ている。